(4)明治

会津三方道路や岩越鉄道が開業し、地場産業は全国を市場とするようになる。

会津三方道路

福島県令三島通庸が計画した会津三方道路の一部として大峠(入田付峠)が改修され、馬車の通行が可能となる。これによって会津－米沢の街道の主役が檜原峠から入田付峠に移り、大峠と呼ぶようになる。

岩越鉄道

四方を山に囲まれて交通不便な会津地方では運輸手段の開設は長年の悲願であった。岩越鉄道が明治30年郡山より起工、同32年若松まで開通した。同37年に喜多方まで開通し、2年後の39年には国有化された。(現在の磐越西線)新潟からの着工により、大正3年に全線が開通した。また、福島・米沢間の奥羽線も開通した。

(資料:新版会津の峠)